



HARA MUSEUM ARC

PRESS RELEASE 2008/07/11 更新版

ハラ ミュージアム アーク 創立 20 周年
古美術展示室「観海庵」(かんかいあん)
2008 年 7 月 27 日 (日) 開館



《左》ハラ ミュージアム アーク外観 《中》渡り廊下より「観海庵」を臨む 《右》「観海庵」内観 (撮影:黒川未来夫)

1988 年の開館以来、原美術館の別館として世界の現代美術を紹介してきたハラ ミュージアム アークは、創立 20 周年を記念して、国宝・重要文化財を含む約 120 点から成る古美術コレクション「原六郎コレクション」のための特別展示室「観海庵」(かんかいあん)を増築いたしました。

「原六郎コレクション」は、原美術館館長・原俊夫の曾祖父にあたる明治の実業家・原六郎が収集したもので、「観海庵」にて初めて定期的展示公開が可能になります。従来の現代美術館としての活動に加え、当館ならではの視点で古美術を紹介することで、新しい美術館のあり方を探ります。

「観海庵」を手がけるのは、ハラ ミュージアム アークを設計した建築家・磯崎新。書院造を参照して設計された空間は、伝統と現代の交錯する新しい体験の場となるでしょう。なお、「観海庵落成記念コレクション展—まなざしはときをこえて—」(2008 年 7 月 27 日 - 9 月 23 日)も、磯崎新監修のもと開催されます。

増築概要

設計・監理	磯崎新アトリエ+KAJIMA DESIGN
施工	鹿島建設株式会社
建築面積	142.56 m ²
構造	木造一部鉄筋コンクリート造
外部仕上げ	外壁:杉板下見張り 屋根:天然スレート、ガルバリウム鋼板
内部仕上げ(書院造り部分)	床:ホワイトオーク 壁:和紙貼り / サクラ練付 天井:杉練付 床(とこ)板:ケヤキ
内部仕上げ(書院造り部分以外)	床:御影石(水磨き)貼り 壁:黒漆喰塗り 光天井:ガラスクロス貼り
内部仕上げ(前室)	床:御影石(水磨き)貼り 壁:黒漆喰塗り 天井:サクラ練付
展示照明	光ファイバー、LED、一部自然採光
展示照明設計	豊久将三
工期	2007 年 06 月 - 2008 年 06 月

ハラ ミュージアム アーク 増築後の規模

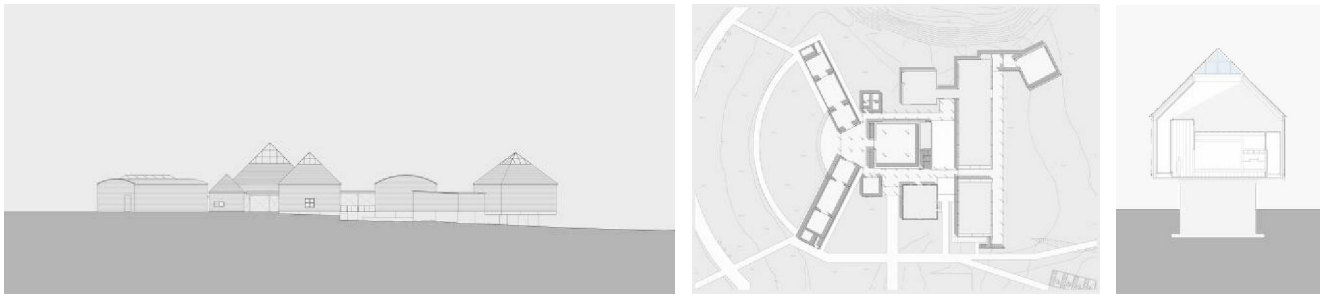
敷地面積	21,413.46 m ² (6,477.57 坪)
建築面積	2,540.29 m ²
延床面積	2,675.48 m ²

磯崎新 プロフィール Arata Isozaki

建築家
1931 年大分県生まれ

主な建築作品:
大分県立図書館 (1966)、群馬県立近代美術館 (1974)、つくばセンタービル (1983)、ロス・アンジェルス現代美術館 (1986)、サン・ジョルディ・スポーツホール (1990)、奈義町現代美術館 (1994)、ラ・コルーニャ人間科学館 (1995)、秋吉台国際芸術村 (1998)、セラミックパーク MINO (2002)、深圳文化中心 (2008)、中央美术学院美術館 (北京、2008 開館予定)

主な企画・監修:
パリ秋芸術祭 1978『日本の時空間—間—』展 企画・構成・展示 (1978-81)、『第 6 回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展』日本館コミッショナー「亀裂」(1996、金獅子賞受賞)、中国国際建築芸術実践展コーディネーター (南京、2003-)



《左》南立面図 《中》平面図 《右》「観海庵」断面図 図面提供:磯崎新アトリエ

【解 説】

文: 安田篤生／ハラ ミュージアム アーク副館長

■ハラ ミュージアム アーク — 原美術館別館として

原美術館は品川区の旧原邦造邸(1938年竣工、設計:渡辺仁)を改装して1979年に設立され、現代美術における国際交流と若手作家の支援を主眼に、現代美術専門の美術館として、作品収集・企画展示・教育普及などの活動を行い、現在に至っている。ハラ ミュージアム アークはその別館として、1988年に伊香保グリーン牧場の敷地内に新築開館した(設計:磯崎新)。以来20年間、原美術館コレクション展や企画展・教育普及プログラムを実施し、豊かな緑に恵まれた郊外立地型の現代美術館として好評を博してきた¹。なお、両館とも博物館法に基づく登録博物館施設であり、その運営母体、財団法人アルカンシェール美術財団(理事長:原俊夫)は1977年に設立され、2006年に文部科学省から「特定公益増進法人」の認定を受けている。

磯崎新が設計したハラ ミュージアム アークの建築は、ふんだんに使われた木や石などの天然素材のぬくもりが感じられる中に、現代美術の展示にふさわしいシンプルで静謐さの漂う空間が特徴である。シンメトリーを意識して配置された三棟のギャラリー内部は、白い壁とグレーのフローリングで統一されたニュートラルな空間で、トップライトからの自然光に満たされる。それを包む外壁は過剰なディテールを避けて黒塗りの下見板張りで統一され、周囲に広がる緑の牧草地と調和している。各ギャラリー棟を連結するロビー部分は屋根だけが架かった半野外の作りで外部と一体化しており、自然の中で現代美術を楽しめる環境を提供するものになっている。

■現代+伝統 — 新しい美術館のあり方を求めて

創立20周年に行なう今回の増築プロジェクト(設計:磯崎新アトリエ+KAJIMA DESIGN)は美術館活動に必要な諸室・設備の増強をめざすものであるが、その中でも特筆すべきは、これまでのハラ ミュージアム アーク=現代美術館になかった要素、“古美術展示室”の新設である。

財団法人アルカンシェール美術財団では、円山応挙畢生の大巻「淀川両岸図巻」をはじめ近世日本絵画を中心にした古美術のコレクション「原六郎コレクション」も所有している。いままで原美術館およびハラ ミュージアム アーク館内では展示の機会がほとんどなかったが、このたび古美術展示室「観海庵」の新築により、定期的展示公開が可能になった。

「観海庵」は建物全体の北東端に突き出す形で建てられ、既存の現代美術棟から渡り廊下を歩いてアプローチすることになる。この60mにおよぶ長い廊下はガラスのない半野外空間で、東側に広がる緑豊かな景色と高原の空気を楽しみながらひと時を過ごせる場所でもあり、自然の中の美術館という創立当初のコンセプトを継承している。この結果ハラ ミュージアム アークは、ニュートラルな現代美術室と和の伝統を意識した(次節参照のこと)古美術室が一つの建築の中で好対照をなし、新しい姿を見せることになったのである。

¹ 主な企画展「ジャスパー ジョーンズ 版画 1960-1986」(1988)、「プライマルスピリット—今日の造形精神」(1990)、「李禹煥」(1991)、「ARATA ISOZAKI—第3世代美術館」(1991)、「Too French」(1992)、「アートは楽しい」(1990-1999)、「杉本博司」(1996)、「ヤングロート」(2001)、「束芋—夢違え」(2003)ほか。

■古美術展示室「観海庵」 — その空間的魅力

「観海庵」は、六間四方・約 100 m²とこじんまりしたものであるが、磯崎新が考え抜いた空間コンセプトにより、日本の伝統的空間意識を継承しつつユニークな展示空間が目指された。

当財団の古美術コレクションの代表作の一つに「三井寺旧日光院客殿障壁画」と呼ばれる作品群がある。現在大部分が軸装されているが、もともと滋賀県の三井寺(園城寺)の旧日光院客殿(現在は東京の護国寺月光殿として移築保存されている)を飾っていた障壁画である。そこで、旧日光院客殿奥ノ間の書院造を参照した三間四方の空間が、「観海庵」の内部に入れ子になるというコンセプトでデザインが進められた。内部は漆喰・木・石といった素材で仕上げられ、展示照明には光ファイバーや古来の和蠟燭に近い光を実現する最新の発光ダイオードが駆使される(照明設計:豊久将三)。こうして、かつて生活の中に「和」の表現が存在し鑑賞されていた本来の環境により近い展示空間を作り上げることになった。

この「観海庵」は、名称の由来(次節参照のこと)にもあるように、当財団の古美術コレクションのための空間ではあるものの、原美術館のメインテーマである現代美術を排除する空間ではない。伝統の書院造へのオマージュであるこの空間との対話を繰り広げる現代美術の作品展示も、時々にはあるが行なわれるであろうことを、付記しておく。

■「原六郎コレクション」の概要と「観海庵」の由来について

当財団の古美術コレクションは、館長原俊夫の曾祖父にあたる実業家原六郎(1842-1933)が収集したものの一部で、財団法人アルカンシェール美術財団の設立時に寄贈された。原家の邸宅と庭園のあった地域(現在の町名は品川区北品川)は当時御殿山と呼ばれており、次代の原邦造がこの場所に建てた洋館が、現在の原美術館本館である。

「観海庵」という名称は、生前和歌や書を嗜んだ原六郎が「観海」と号していたことからつけたものである。そして「観海」の号は漢籍の一節「孟子曰『孔子登東山而小魯，登太山而小天下。故觀於海者難為水，遊於聖人之門者難為言。』」(「孟子」盡心章句上二十四章)に由来する。(大意:「孟子が言うには、孔子が東山に登ってみれば魯(国の名前)は小さいものだと感じるし、泰山に登ってみれば天下も小さいものだと感じられる。だから、大海を見たことのある人々は川をたいしたものと思わないし、聖人の門下で学んだ者は、たいいていの言論を聞いてもたいしたものとは思わないのだ。」)

原六郎が収集した約 120 点におよぶ古美術コレクションは、近世日本絵画を中心に工芸・書蹟さらに若干の中国美術もふくみ、国宝一件、重要文化財一件が指定されている。下記に掲げるものはその一部である。(他館に寄託中の作品をふくむ)

円山応挙	「淀川兩岸図巻」	江戸時代・一巻	
円山応挙	「淀川兩岸図巻下図」	江戸時代・一巻	
狩野永徳ほか	「三井寺旧日光院客殿障壁画」	桃山～江戸時代・四十七幅および六曲一双	
狩野探幽	「龍虎図」	江戸時代・双幅	
司馬江漢	「富嶽図」	江戸時代・一幅	
岸駒	「陶淵明図」	江戸時代・一幅	
森徹山	「百鶴図屏風」	江戸時代・六曲一双	
本阿弥光悦	「蝶下絵和歌巻」	江戸時代・一巻	
不詳	「縄暖簾図屏風」	江戸時代・二曲一隻	【重要文化財】
不詳	「青磁下蕪花瓶」	南宋・一口	【国宝】

※各作品の展示時期についてはお問い合わせください。

【主な出品履歴】

- 特別展 「御殿山 原コレクション」 根津美術館・東京、徳川美術館・名古屋 1997 年
- 特別展 「御殿山 原コレクション」 MOA 美術館・熱海 2001 年
- 特別展 「円山応挙」 大阪市立美術館、福島県立美術館、江戸東京博物館 2003-2004 年
- 特別展 「狩野永徳」 京都国立博物館 2007 年

取材のお問合せ、資料のご請求先

ハラ ミュージアム アーク 広報担当 E-mail: press@haramuseum.or.jp

Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449 (代表番号)